

共創による乗合バス事業の共同運営システムによる取組

応募様式A

バス協調・共創プラットフォームひろしま

事業の基礎情報

実施主体	広島市
事業実施地域	広島県広島市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	商業・農業
共創パートナー	広島電鉄株式会社、広島バス株式会社、広島交通株式会社、芸陽バス株式会社、備北交通株式会社、中国ジェイアールバス株式会社、エイチ・ディー西広島株式会社、株式会社フォーブル
運行形態	路線バス
運行主体	広島電鉄株式会社、広島バス株式会社 等

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

- ・広島市は乗合バス事業者が12社にものぼる「バスのまち」であり、これまで各社は成長トレンドの中で利益を上げてきたが、採算性や競争原理を優先して事業展開してきたこと、官民の連携が不足していたことから、事業者の枠を超えた取組は一部の取組に留まっていた。
- ・こうした中、人口減少やモータリゼーションの進展に加え、コロナ禍による大幅な輸送需要の減少などに直面し、各社の経営努力のみでの事業存続は極めて困難な状況となっている。このため、官民それぞれの強みを組み合わせる共創により全体最適化を図るための新たな連携体制として共同運営システムを構築し、乗合バス事業の再構築に取り組むものである。

（事業の概要）

- ・事業者数が多いという広島市特有の事情を踏まえつつ連携体制を構築する上では、客観的データにより事業者間の公平性を担保し、納得感を高めながら各種施策を展開していくことが重要となる。
- ・このため、昨年度の本プロジェクトを通じ、これまで関係者が個々に保有してきた各種データを共有・分析し、関係者が一体となって利便性向上や運行効率化を企画・立案する仕組みを構築したところであり、今年度は、その成果・課題を踏まえ、より効果的な運行形態を追求するものである。

共創による乗合バス事業の共同運営システムによる取組

応募様式A

バス協調・共創プラットフォームひろしま

事業の全体像・共創の仕組み

バス協調・共創プラットフォームひろしま
(バス事業者と市による組織体として令和6年4月に設置)

【申請主体】



広島市

役割：全体調整

【運行主体】



役割：データの共有、実証運行の実施

事業者にとって財政負担の大きな「バスサービスに必要な基盤の整備・管理」や、個社では効果が出にくい「路線再編計画、利便性向上策、業務改善計画などの企画立案などのサービス・マネジメント」に官民共同で取り組む

関係自治体が保有するモビリティデータ連携基盤等を活用するほか、学識経験者からの技術的助言も得ながら、より詳細にデータを分析

持続可能な公共交通体系の構築に向け、
バスの取組を他の交通モードへも展開



画像出典：広島市総合交通戦略（令和4年3月）

200万人広島広域都市圏への展開

複数事業者と行政が参画して組織化し、
ネットワークの最適化のみならず、基盤の整備・管理まで含めた再構築を目指すものとしては、全国初の取組み

取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

バス事業者8社と広島市による組織体が、関係団体や学識経験者等とも連携のうえ、事業を推進（上記体系図参照）。

（実証事業により見込まれる効果）

【実施内容】

長大路線のフィーダー化の実証運行及びその結果から得られるデータの分析

【分析内容】※過年度実証運行の分析結果を踏まえ、分析内容をアップデート

- ・実証運行路線の利用者数調査及び利用者アンケート調査
- ・既存の交通データを基にした最適なフィーダー拠点の検討※
- ・乗換拠点における動的データの把握による定時性、乗継時間の分析※
- ・乗継時間における近隣商業施設の利用状況を調査※
- ・乗換拠点の環境整備による利用者の満足度を調査※

等

【見込まれる主な効果】

- ・フィーダー化による利用者利便性及び運行効率の向上
- ・組織化された交通事業者間連携による一体的なサービス提供の可能性検証
- ・データ分析結果の事業計画への反映による着実な交通施策の実行
- ・交通分野と他分野連携の可能性検証

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

(1) 事業実施手順

- ・広島市が中心となって全体調整を図りつつ、事業者が保有するデータを収集し、現状や実証運行結果を定量的に評価。
- ・データからは見えない利用者の声等を捕捉するため、アンケート調査も併用することにより、データ分析結果を深掘り。

(2) 本事業のスケジュール

○ 6月～9月

- ・データ整理統合、データ分析
- ・アンケートの設計
- ・実証事業、利用促進策の企画立案
- ・広報、法定協議会への説明、法手続き等

○ 10月～12月

- ・実証事業、利用促進策の実施
- ・アンケート調査

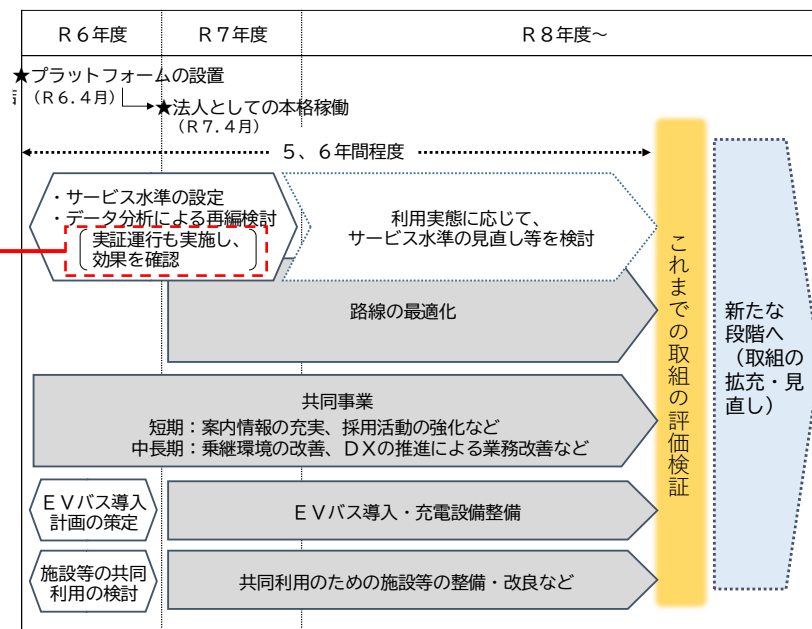
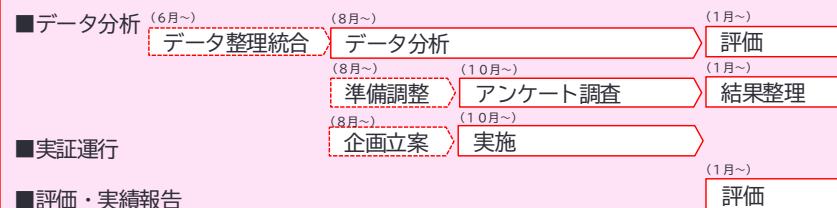
○ 1月～2月

- ・実施結果の整理、評価、報告書作成

(補助事業実施後の予定)

- ・プラットフォームでは、乗合バス事業の全体最適化に向け、今後2年程度をかけてサービス水準（運行ルートと頻度、交通結節点の乗継環境など）を設定するとともに、データ分析による再編案を検討することとしている。
- ・今回行う実証運行は、将来的な再編が見込まれるような路線で実証運行を行うことにより、より使いやすい再編案を検討し、公共交通の利便性向上のための交通施策に反映していくものである。

実証運行（共創・MaaS実証プロジェクト）



【バス協調・共創プラットフォームひろしまによる取組のロードマップ】